

# 自由南アフリカの声

1999年3月

No.19

Voice of Free South Africa

発行 アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association(TAAA)

## 1999年3月の報告

- 11月ハウテン州教育局に車が到着
- 1月末、3人が南アを訪問
- 2月浦和市にて報告会
- 車2台整備中
- 3月までに総計147,959冊を送付

### 目次

南ア訪問報告 1 .....	2
南ア訪問報告 2 .....	4
南ア訪問報告 3 .....	7
毎日新聞記事 .....	9
埼玉県国際貢献賞受賞 .....	9
前南ア特派員からの手紙 .....	10



「おもしろそう。先生、この本わたしが借りていい？」 デバトン

(写真:古我貞夫 7枚)

## 南ア訪問報告 1

### 浅見克則

今年度の視察は次のように実施した。

#### 1 目的

A ハウテン州教育局の移動図書館活動の概要を把握し、3月より予定されている活動地域を予め視察する。

B ハウテン州教育局に対して寄贈する3台の移動図書館車の引渡式に列席する。

C MEIの移動図書館活動を視察する。

D マシフンデスの移動図書館活動を視察し問題点をあぶり出す。

#### 2 メンバー

浅見克則=視察団代表、総括

古我貞夫=司書としての現地指導、写真撮影、会計、視察前半の報告

工藤睦子=スケジュール調整、通訳、視察後半の報告

#### 3 略語説明

GDE=ハウテン州教育局

MEI=メソジスト教会ボランティア組織 (ベノニ)

マシフンデス=教育を普及させるボランティア組織 (ケーブタウン)

ELET=英語教育協会 (ダーバンのNGO)

RDP=再開発計画

浅見副代表が3台の車の鍵をGDEのマセコ氏に渡す。

フリトリア

ここでは日記風に活動の概要を総括してみた。

1月24日(日) - 25日(月)

厳寒の東京を飛び立ったのは1月24日の日曜日だった。

今回の視察は代表の野田さんが参加しないはじめての試みだ。果たして無事に課題をこなせるか? 期待と不安に満ちた旅立ちとなった。関空から南アフリカ航空に乗り換え一路アフリカの地へバンゴクでの給油を経て約20時間の空の旅。7時間の時差も手伝ってヨハネスバーグ国際空港にベントレー氏(MEI代表)を見つけたときには朦朧としていた。日付はいつのまにか25日(月)に。ベントレー氏の紹介のグリフィン・ロッジに到着するや否やGDEに電話を入れ会談を申し入れる。

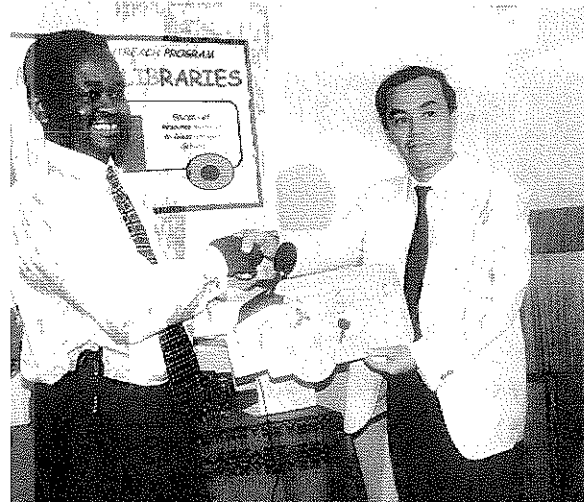
MEIの司書のアリソンさんのダイナミックな運転に腰を浮かしながらもヨハネスバーグの繁華街のGDEの事務所には約束の時間に到着した。今後の計画の概要を聞き、計画書の提出の約束を代表のケラー女史から引き出し、ロッジへ戻りベッドに倒れこんだ。

1999年1月26日(火)

この移動図書館プロジェクト発祥の地、ベノニのMEIを訪れた。マンデラ大統領も訪れた記念すべき車と共に小学校巡回に出掛ける。長い時間を掛けて車、車庫(書

ハウテン州教育局が移動図書館車のお披露目

フリトリア



庫)、図書の実を当会で援助した最も密接な関係のシステムの稼働を目の当たりにして目頭が熱くなるのを禁じ得なかった。

1月27日(水)

今日は今回の視察で最も華やかなGDEへの3台の車の引渡式だ。ここで何故いっぺんに3台の車を寄贈することになったのかを振り返る。1台は新たに送った車だが、そもそもいかに日本の車検を通過して来た車といえども10年は確実に使われた車である。輸出整備で大分蘇ってはいるものの、何時どこが壊れるかは予想しがたい。せっかく立ちあげた移動図書館車システムが車の故障で霧消してしまうのは見るに忍びない。そこでスペア車として後から1台追加し予備役として保管しておけば完璧と我々は目論んだ。しかし南アの厳しい社会情勢は車を外に放置しておくなど許さない。一晩で車輪はおろかエンジンまで盗まれてしまう。大きい図書館車を安全に保管しておくには相当な経費が掛かるのである。NGOにはこれを負担する能力はない。又、我々にもそこまで負担することは出来ない。そこで予備役の車が1台余った。さらにELET(ダーバン)では財政の逼迫から車を手放さざるを得なかったのだ。そこに降って湧いたように州政府機関であるGDEからの要請があったGDEにとってみれば移動図書館車の運行は予算化できるものの、車を作る予算はととても取れない。(ちなみに新車を建造すると5千万円程度掛かると聞いている。物価が日本の三分の一とすると彼らにとっては実質1億5千万円の商品なのだ。)我々は車の寄贈は出来るが後々のランニングコストまでの負担は背負いきれない。即ち、TAAAとGDEはその能力から言ってもとても良い関係になりうるのだ。又、席上お会いした在南ア日本大使館の天塚公使に『草の根援助資金』の交付

をお願いした。

午後はユネスコ教育部門との話し合いに入った。TAAAの車の供給能力との調整能力をユネスコを足しあわせれば第2、第3のGDEのような運行システムを作り出すことができるかもしれない。

1月28日(木)

昨日の式典でGDEに寄贈された図書館車が巡回する予定のオレンジ・ファームの学校を訪れた。RDPの進行とともに学校の校舎は徐々に整備されつつあるようだ。どの学校も同じ部材を使って同じ図面で作られているのだろう。計画はスローながら遂行されていると感じた。

1月29日(金)

連日のハードスケジュールは本日その極に達した。昨夜はベントレー氏宅へMEIのメンバーが集まって奥さんの心尽くしの夕食を頂き、さらにロッジに戻ってからのミーティングは深夜にまで及んだ。

朝6時のフライトにあわせ4時起床。ヨハネスバーグからケープタウンへ向かう機中で1時間ばかりを食るように眠る。今日からはユネスコの菊川氏も同行する。空港にはマッシフデスのシュエ氏が迎えに来ていた。マッシフデスでは州政府から学校図書館のアドバイザーも同席し、各種の問題を話し合った。その後1台の車で約200km離れたジュースで有名なセレスのコミュニティを訪れ、様々な障害を討議した。昼食をとるチャンスを逸したが我々がレストランに転がり込んだのは夕刻の6時。夕まぐれの幻想的な南アの大地をボロ車で信じられないくらいのスピードを出す。対向車にぶつかれば全員お陀仏まらがいなし。約束のレストランに9時に到着。何と他のスタッフと日本人の福島庚伸さん

は3時間近くをビールをチビチビやりながら待っていてくれた。気の長い私だがこれには脱帽。アフリカ料理に舌鼓を打つうちにビールとテキーラが体中に回りなんだかとってもいい気持ちに……。火照った頬に優しい夜風、見上げるとオリオンが逆さまに瞬いていた。

1月30日(土)

今日は最終日。せっかく風光明媚なケープタウンに来ているのに最終日すら観光の出来ない悲しき公的視察団(どこかの議員さんに聞かせたい)。今日は昨日とは反対

側に150km。ホエールウォッチングで有名なエルマナス。コミュニティーセンターで待つこと30分。連絡が悪かったのか皆は集まらなかった。やむを得ず近くのスクオッターキャンプを見学。飛行機の時間を気にしつつケープへ。シュエ氏と菊川氏の見送りを受け機上の人となったのは午後1時半。長い長い帰途につく。

最後に、お世話になった諸氏に紙上を借りてお礼を言いたい。また驚異的なスケジュールをこなしたメンバー2人にも一言言いたい。『お疲れさま!』

## 南ア訪問報告 2 工藤睦子

フアリーニヒン *Vereeniging* (ハウテン州)

ハウテン州教育省(以下GDE)が今年3月に移動図書館車プロジェクトを開始するので、私たちはGDEがまず巡回する6地域の一つを訪れました。フアリーニヒンはハウテン州南部にある町です。S3という地区にある96の公立学校を担当するメディア・ファシリテーター(以下MF)のジェニーの案内で、小学校と中学校を見に行きました。

読書習慣のない地域で図書館利用の経験のない人々を、求めている本にたどり着けるまで指導することがMFの重要な役割です。私たちがME1の移動図書館活動で見たように、教員に本の借り方・返し方はもちろんのこと、担当の生徒のレベルに合わせて本を選ぶのを手伝ったり、本の中のストーリーを少し変えて応用する例を示したりすることが期待されています。

このMFと移動図書館車の組み合わせによって、低い識字率、少ない資料、移動手段の欠如をカバーすることができるでしょう。ハウテン州では行政の上部から学校の校長や教員まで、このプロジェクトが意図する教育の促進に合意が来ています。この点

が非常に重要である事が、後で西ケープ州でわかりました。

ラウ・デオ小学校には費用が払えないために水も電気もありません。州政府の教育予算が近年切り詰められたために、学校はお金も人も足りない状態にあります。20人のスタッフで860人の生徒を見ています。学校の設備や規模だけではなく、治安の悪さも問題になっています。

移動図書館車プロジェクトについて重要な、人の側面を考えますと、この小学校の司書は教員も兼ねていて、図書館業務に集中できないことや研修の機会が与えられていないことが残念です。しかしMFが司書やスタッフを指導することで、初めの段階は補完し、将来的には専任の司書をおくことや第2のMFとして研修を受ける機会があってほしいと思います。

学校は地域の母親を巻き込む努力をされていて、カン・ビン・プラスチックを集めたり、畑で野菜を育て換金して学校の経営に使っています。

このようにスタッフが意欲的なので、この学校に移動図書館車が来たら、生徒達が楽しい本の世界を知り、その親達が読書する文化に巻き込まれて行くだろうと期待しています。

このあとで、ヴラニンデラ中学校を訪ねました。生徒はもう帰宅していなかったのですが、校長先生と司書と話をして来ました。この中学校の図書室は比較的良い状態でした。この中学校の校長先生も本と図書館の価値を高く評価しています。移動図書館車が人々の生活に変化をもたらすと話していたので、きっと成功するだろうと思いました。

#### セレスとエルマナス *Ceres and Hermanus* (西ケープ州)

TAAAは2台の図書館車をケープタウンのマッシュフンデスというNGOを通してセレスとエルマナスという町に寄贈しました。ところが両町の当初の計画はなかなか軌道に乗らないため状況を調べに行きました。

セレスはケープタウンから車で1時間ほどいったところにある町で、TAAAが贈ったはずみ1号は市のガレージに保管されバッテリーが消耗している以外には非常に良い状態でした。

市は移動図書館車のランニングコストを負担することを予定していたのですが、現時点では実行されていません。市の無計画性を感じます。

貧困地区の人々こそ、現在の生活を改善するために本と教育が必要なのです。彼らは農場労働者として朝から晩まで働き、町の中心にある公立図書館へは開館時間に行くことができません。彼らこそTAAAが移動図書館車というツールを通じて支援したい人々なのです。

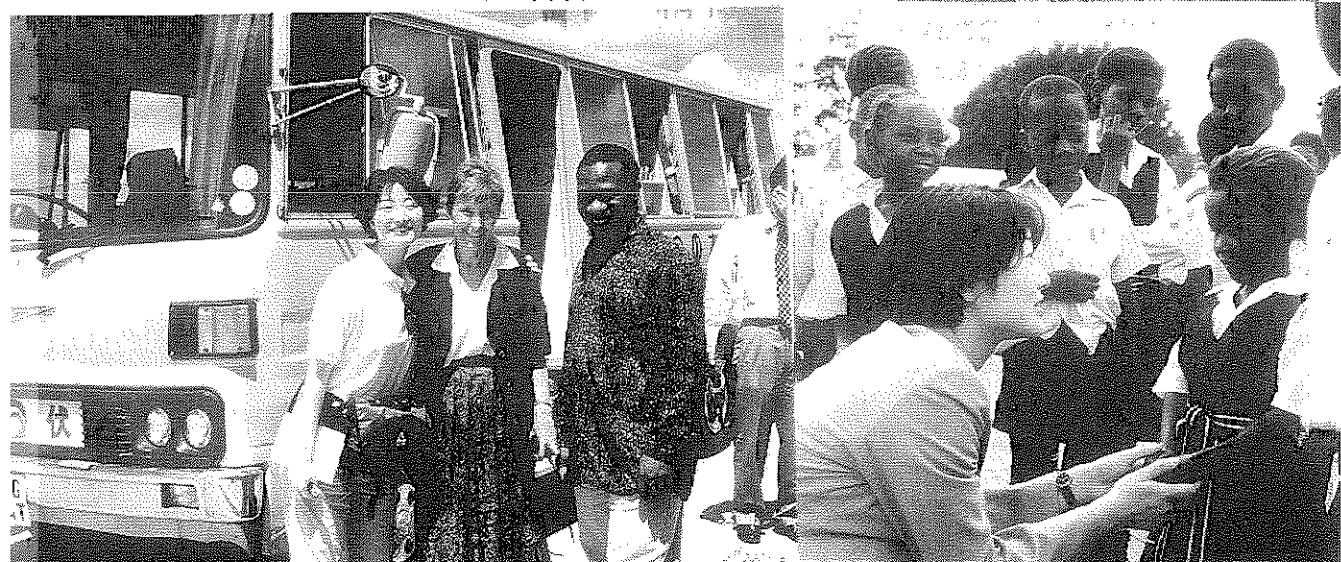
州の教育省から来ているアドバイザーのジュンが希望の光です。真にコミュニティのことを考え積極的に行動する彼女が頼もしく見えました。ジュンとマッシュフンデスの支援によって、コミュニティは車の返還を市に要求し再度計画を練り直そうとしています。

私たちはもっと連絡を密にしていっしょに問題を考えたいと彼らに伝えて来ました。また、人やお金の制限で車を届けるまでしか出来ない、TAAAの限界を残念に思いました。

エルマナスはケープタウンから車で1時間半、海岸沿いのホエール・ウォッチングで有名な観光の町です。エルマナスではとうとうバスの姿を見ることができませんでした。たった半日という限られた時間の中で、私たちは黒人居住区を歩き、学校と住まいを見て、コミュニティのリーダーと

MEIとTAAAはとても仲良くなった。「メガ、だーい好き！」  
エトワト

「お名前は?」「あーのーね」  
小さい子供にまだ英語は難しい。 デベトン



話をしました。

この居住区には主に東ケープ州の旧ホームランド、トランスカイからの仕事を探しに来た人が一時的に住んでいるといわれています。彼らはコサ語を話しますが、推定非識字率は70%だそうです。地域が二つに分かれていて、片方では水、水洗トイレ、プリペイド・カード・システムの電気、ラジオがあります。もう片方ではありません。この地域は雪も降るので、寒さをしのげるのか疑問に思う住居がたくさん在りました。

このコミュニティには小中統合学校と1996年に建てられたばかりの高校がありました。授業についていけない子供のためのクラスやアダルト・スクール、幼稚園もありました。ただ中途退学者や、未就学児童が多いことが問題として考えられます。それは、働かなくてはならないためであったり、親が学校に行かせない、または職をもとめて住所を転々とするためです。

こうした地域だからこそ移動図書館車がコミュニティの中に学習機会を持ち込む意味があります。コミュニティのレベルでは人々は移動図書館車プロジェクトに熱心です。しかしながら市当局の政策方針と市と州教育省とのコミュニケーション不足が、このプロジェクトの妨げになっていると考えられます。

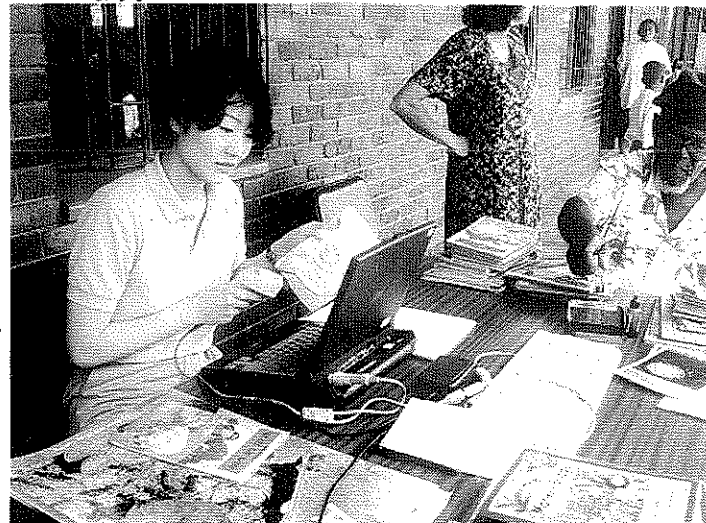
セレスでもエルマナスでも、ランニングコストとスタッフの研修のための費用が不足しています。現在のところ、こうした継続的な費用を負担するドナーはいません。日本では移動図書館といえば公共図書館が遠隔地をカバーするために用いる手段ですが、ハウテン州のケースのように学校を中心にプロジェクトを始めたり、週末はコニ

ュニティで奉仕するというのが現実的な計画に思われます。

そこで TAAA マッシフデスに提案できることは何かを考えました。市の関心が「公共図書館」にあり、移動図書館車は建物が出来ればもういらなくなると考えているようであれば、遠隔地への奉仕を放棄していると言えます。移動図書館のコンセプト、全ての地域住民に奉仕する公共図書館というコンセプトが理解されているか疑問に思います。ですから運営主体はマッシフデスなど、コミュニティのニーズを良く分かっている団体が良いでしょう。マッシフデスが不足としている要素を以下のように準備してはどうでしょうか。

- 1) 在南ア日本大使館が持つ草の根無償資金の500万あるいはそれと同様な資金によって、ガレージと書棚と書庫を準備する。
- 2) 州政府教育省に本の選定、収集、装備における協力を求める。
- 3) TAAAまたは州政府教育省から、国内留学の費用の捻出の努力をする。
- 4) MEIには実務研修の受入先になってもらう。

まだはつきりしていない点は、この計画にかかわるそれぞれの主体の同意が得られるかということ、トレーニングをうけた現地スタッフがこの仕事にとどまるかということ、セレス市の財産である車をどのように扱うかということ、そしてTAAAがどこまで関与できるか今後の課題と言えるでしょう。



工藤さんは圖書の貸し出しに挑戦する。  
デバトン

## 南ア訪問報告 3

埼玉県立熊谷図書館司書

古我貞夫

NGO・州政府・国際機関(南アフリカ 移動図書館 三大断)

### MEI (お断その1=NGO)

私がTAAAに参加しようとしたきっかけが、MEIに送った最初の車両「まつの木号」の新聞記事ではなかったか？もう何年前の話だろう。その車が走っている。私たちを乗せて学校に向かっている。車には日本から送った英語の本、何種類かの部族語の本。圧倒的に絵本が多い。この地区の小さな子どもたちはまだ英語が十分しゃべれない。一文字ずつたどって本を読み進めるには絵本に限る。

パフォチコ小学校に着く。デベトン地区でも比較的裕福な地域である。フルアネ校長が私たちに感謝の言葉をかけてくれた。

MEIの司書、マーガレット・グレイヤーさん(以下メグ)とアリソンさんがノートパソコンを準備する。

図書はクラス毎に学級主任の先生に貸し出される。クラスへの貸出はコンピュータを使う。先生が生徒に貸し出すときは図書カード(issue card)だ。

なんていう優れたシステムだろう。いくつもの学校のたくさんのクラスに散らばっている図書の貸出記録は全てパソコンで管

理されている。一方、先生から生徒への貸出は簡易なカードで十分である。あえて、ダブル・システムを取り入れたメグ達のオ覚に脱帽するしかない。

工藤さんは借りていく図書を選んでいる教員に、メグがレクチャーしているのを見掛けた。行き届いた利用指導もまた、彼女のワザなのだ。なんていうすぐれたライブラリアンだろう。なんてすてきなひとなんだろう。メグは病状が悪化していると聞いていた。だから、彼女との面会は無理だろうと思っていたが、メグは信じられなくらい元気で、いきいきと輝いている。

私は彼女に「紛失リスクを見込んで生徒に本を貸し出すべきだ」と助言しました。

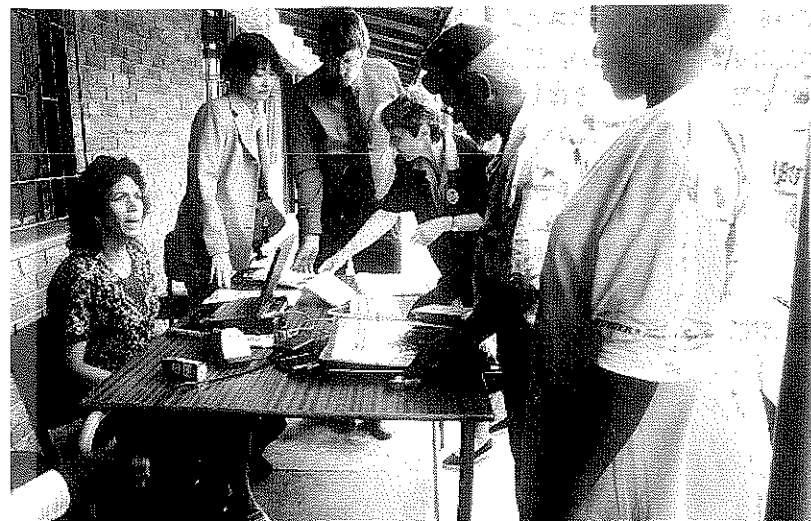
「黒人家庭には読書の習慣がない。でも、本を読む子どもの姿を親が見れば、読書への理解が進むでしょう」と言った。

メグは「同感です。教員達は紛失を恐れて図書の貸出に慎重になる。でも私は是非生徒に貸し出すように勧めているの」と言う。アリソンに聞く。「図書のデータ入力は大変ですか?」「メグと私二人で週に2日ずつ、100冊くらい入力するの。もう少しデータがたまったらプリント・アウトして冊子の目録を各学校に配りたいな。そうすれば予約だって掛けられるし・・・」

「図書館は全ての人の学習権を保障する」MEIの移動図書館は本格的な図書館システムに向かって着実な成長を遂げて

アリソンはノートパソコンをセットする。  
「借りる本は決まったの?」

デベトン



いる。きらきらと輝く子どもたちの眼を見ながら、MEIは本当に良い仕事をしていると思った。

ハウテン州教育局 (GDE) (お断その2=州政府)

「スローガンは”AMA BOOKO BOOKO” (ズールー語で「本だ!本だ!」)。

1月27日の移動図書館車譲渡式はハウテン州政府の教育大臣メアリー・メトカルフェ女史、日本大使館から大塚公使まで参加する大パーティーになってしまった。

テレビ局が来る、新聞社が来る。参加人数約60人。小学生のコースでおおいに盛り上がる。南ア人の大好きなセレモニーである。

私たちの贈った3台はかっこよく並べられ、1台は塗装もきれいに化粧直しが終わり、図書やカセットテープが飾り付けられている。

車の鍵を手渡す役を引き受けた浅見さんの挨拶「今年中にあと2台送ります」に会場は沸く。

3月5日には巡回開始の予定。巡回箇所は州南部の6地域。ハウテン州の学校図書館振興策は、南アの他州に向けてモデルになるだろう。リストラのために教職員を30%も削減しようというこの時期に、わずか3人とはいえメディア・フアンシリテーターを移動図書館活動のために探ろうというのだ。

「何ととっても、GDEはセレモニーの場で人件費は州が出すと明したんだから、間違いないですよ」ユネスコ職員菊川さんは私の伝授したセオリーをさっそく応用する。

「図書館には3つの要素がある。

- 1 施設 (建物=この場合は車両)
- 2 資料 (図書)
- 3 職員 (ヒト)

図書館の活動を見るとき、この3点が揃っているかどうか?点検してみる。不足し

ているところを補えば活動は良くなるはず。最も重要なのはヒト。メグを見れば解るでしょ」と言ったのだ。

GDEのみなさん、どうぞ頑張ってください。図書館活動は公共サービス。教育に責任のある州政府がやるのがスジです。

ユネスコ (お断その3=国際機関)

ユタカ・キクガワ。まだ20代。日本人。ユネスコ職員。南ア勤務4ヶ月。「失敗を笑ってごまかす」南ア国民の得意技をすでに身に付けている。

MEI、GDE、マッシュフンデスの活動を見るために私たちの滞在に付き合ってくれる。

「移動図書館は非常に単純な方法で、たいへん効率的に成果を上げている」(同僚のペノワさんの言葉)というのが彼らユネスコが見たMEIの移動図書館である。

「ユネスコとして、今後、MEIやマッシュフンデス等の現状活動に基づきフィージビリティ調査を行い、その結果を南ア中央政府と共に同様なサービスのニーズが高いと考えられる、北部ムブマランガ、北西州の貧困農村地帯のNGO (CBO) に伝えていこう・・・つまり移動図書館活動のプロジェクト普及活動を行おうというわけで・・・」(出国前の事前連絡より)

1月27日ハウテン州での譲渡式のあと、私たちはプレトリア事務所で会合を持った。菊川さんの上司スーザン(米国人)は「ユネスコは移動図書館の活動を広げたい。関係者を集めて、他に広めて行けるようにしたい。TAAAにも話に加わって欲しい。年内にもう一度南アに来れる?」

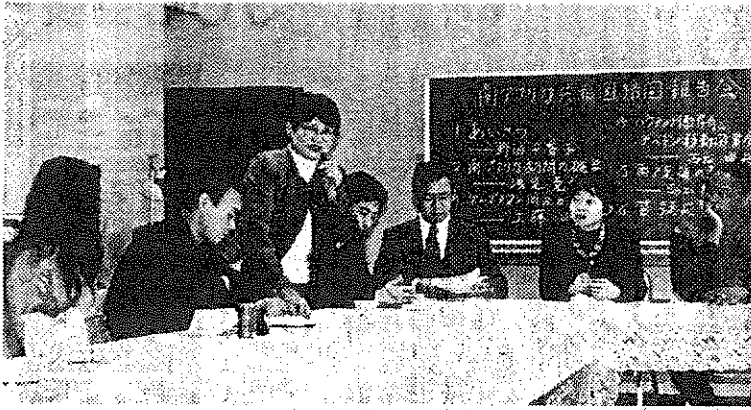
(・・・期待はうれしいけど、)

MEI→GDE→ユネスコ

私たちのやっていることが、玉突きのようにどんどん波及して行く。なんて大きな手応えだろう。



# 南アに本を送ろう



14日に行われた活動報告会。左から3人目が代表の野田千香子さん

1991年にアパルトヘイト(人種隔離)政策を全廃し、人種融合が進む南アフリカ共和国。社会的、経済的な格差の解消を目指して、南ア復興開発計画(RDP)が進められているが、依然として黒人の識字率は低く、就職や進学の際となつてるのが現状だ。

「制度だけが平等になつても意味がない。子供たちが教育を受ける環境づくりをサポートしなくては」と結成されたのが、「アジア・アフリカと共に歩む会」。92年に南アの黒人女性州議が来日した際、「日本の英語の教科書でも、私たちにとっては立派なテキスト」と訴えたのをきっかけに、日本にある英語の古本を送る運動が始まった。

与野市内で塾を経営しながら会代表を務める野田千香子さん(59)は「活動としては非常に単純。英語の本を集めて向こうに届けるだけ」と謙そんするが、これまで海を渡った本は14万冊を超える。

同会によると、「差別に苦しむ国」というイメージが強いせいか、南ア国内には外国企業などによるボランティア団体や非政府組織

# 文化届け、すでに14万冊

(NGO)が5万以上あり、職業訓練などの民間活動は活発だ。会ではその豊富なネットワークを利用し、全国の学校や出版社から寄せ

## 移動図書館の寄付も

られた古本を1〜2カ月に1度のペースで、ヨハネスブルクやケープタウン近郊の黒人居住区に送り続けている。本が満遍なく届くよう、中古の移動図書館車も寄付し始めた。サポートのきめ細かさでは群を抜いた存在だ。

遠い国への協力は、関心の低さや資金不足など、苦勞話もまじりがない。しかし、大手の船舶会社が海上運送を無料で引き受けてくれるなど、幸運にも助けられた。

今のところ、援助対象は南アだけが、周辺諸国からも共感を呼んでいる。シンパエ出身で東京都内で

インターネットショナルスクール教師を務めるサージ・マランガさん(47)は、講師として招かれた同会の報告会で「南アは他のアフリカ諸

国の希望なんです。母国では南アの将来に大変関心がある。協力してくれる皆さんに感謝する」と強調した。

差別に苦しんだ黒人たちが国をどう再建していくかが、自国の将来とも重なるからだ。活動の中心はあくまで「本」という文化を届けること。派手さはないが、野田さんは「物資を送るのと違って、子供が本を手に入れば、家族も含めたその全体の雰囲気が変わる。それって大きな変化なんですよね」。【井崎 憲】

## TAAAに埼玉県国際貢献賞

1999年2月、「アジア・アフリカと共に歩む会」は埼玉県から、彩の国国際貢献賞を受賞した。TAAA代表の野田は他の3団体の代表と共に公館で知事と懇談ののち、賞状を受け取った。知事は地方行政が国際的に大きな働きをする。この意義を語った。TAAAは県からは、1998年度も二つの助成金を受けている。

毎日新聞外信部（前南ア特派員）

福井聡さんの記事と手紙

春の日和となってきました。お元気でしようか。…先日、新聞の片隅に南アの総選挙が6月3日になったと載っていましたが、…一度行ってみたいと思っておりますが、なかなか行けないでいます。…5月1日付けで、ウーン特派員の内示が出ました。今度はコソボやボスニアや旧東欧諸国が担当地域です。アフリカと同じ様な地域紛争のヨーロッパ版となります。

ヨーロッパに行ってもアフリカのことは忘れません。歩む会の活動もどこかで見ていますので、「のんびりと」続けて行って下さい。

お元気で。とりあえず、ご返事まで。  
福井聡

「相変わらずのんびりと続けておられます」。以前、アフリカ特派員だったところ取材した「アジア・アフリカと共に歩む会」の野田千香子代表から手紙が届いた。



毎日 ボランティア (99.3/4)

最先端医療施設を贈ればだが維持管理するのだから。「教わる」気持ちなしで援助は続かない。歩む会は日本で余った英語の教科書を贈る活動から出発し、その本を載せて走る移動図書館の車を贈り、人の交流を広げている。  
（現地は）何台でも欲しいと言ってますが、本当に稼働するのを見ないうちは次回の準備はしないつもりです」と、厳格な面も。野田さんの「のんびりと」の持つ意味は重い。【福井聡】

南ア直輸入健康茶ルイボスティ  
ルイボスティ 80パック5箱… 1万円  
（税・送料込み）

4箱以下… 1箱2000円（税・送料500円）  
Faxかハガキでお申し込み下さい。  
お名前、住所、箱数、電話をどうぞ。

お知らせ

- ★1998年8月に18号を出してから半年がたっしてしまいました。南ア訪問が1月末になりその報告を掲載しなかったため、すっかり遅くなってしまいました。
- ★3月14日と21日文化放送に野田千香子と浅見克則が出演しました。ダニエル・カールのインタビューを受けてTAAAの活動や南アの状況について2回にわたって話しました。
- ★南アのハウテン州教育局では3月から、移動図書館のプロジェクトを起動し始めることになっています。順調に稼働にいたる過程をしっかりと見ながら、適切な応援をしていこうと考えています。
- ★1998年は例年に引き続いてボランティア貯金の配分金を受けて、活動をすすめてきました。埼玉県からの助成金も受け取りました。しかしこれらの助成金は、項目が規制されていて、国内の事務費、通信費、また海外部分でも項目毎にオーバーした分については皆さんからの寄付金やルイボスティの利益などで賄っていくこととなります。活動の柱となる部分は皆さんからの寄付金で賄っています。どうか、皆さん、これからもTAAAを資金面から支えて下さるよう、重ねてお願いいたします。

◆多くの方から英語の本をいただき、感謝しています。本は一旦近くの倉庫へ保管して月に一回位荷を解き、梱包し直します。そうした事情ですので手紙や寄付金などは別便でお送り下さるようお願いいたします。

◆ニューズレターは会にこれまで協力して下さった方にお送りしていますが、ご不要の方は恐縮ですが電話、Fax、ハガキなどでご一報いただければ幸いです。

自由南アフリカの声 第19号 1999年3月20日発行  
新所 アジア・アフリカと共に歩む会  
〒338-0012 埼玉県与野市大戸5-17-1 野田方 Tel 048-832-8271  
Fax 048-832-3607  
郵便番号:「アジア・アフリカと共に歩む会」00100-4-608515 (寄付金振込)  
新入 野田千香子 職人 久我祐子